

米景気回復期待に加え、鉄鋼業界再編の動きも好感し、日本株は大幅高

2011年2月4日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

米経済指標の改善を受けてNYダウは連日の高値更新

欧州株式市場は前日比ほぼ変わらずで引けました。英蘭系石油大手やスペインの銀行大手等の失望決算が嫌気されましたが、自社株買いを発表した医薬品大手や好業績を発表した通信株などが堅調で、相場を下支えしました。英蘭系石油大手の四半期決算は大幅増益となりましたが、精製マージンの低迷等により市場予想を下回ったほか、慎重な業績見通しも嫌気されました。スペインの銀行大手は商業用不動産融資部門が振るわず、貸倒引当金や評価損の増加に伴い純利益は減益となりました。

米国株式市場は個別決算は強弱入り混じり、小幅安で推移していましたが、米マクロ経済指標の改善等を背景に次第に買いが優勢となり引け近辺で小幅ながらプラスに転じました。NYダウは4日続伸し、連日の高値更新を更新しました。好業績を背景に米通信大手が自社株買いを発表するなど、投資家への利益還元姿勢を示す企業が増えてきていることも支援材料でした。

主要小売大手の1月の既存店売上高は前年同期比+4.8%と予想を上回る伸びとなりました。雇用や住宅環境の低迷に加えて吹雪などの悪天候下での改善に、米景気回復に対する楽観的な見方が広がりました。オンライン売上高の伸びが悪天候の影響を和らげる一因になりました。また、1月のISM非製造業景況感指数は59.4(予想:57.2)と5ヶ月連続で上昇し、2005年8月以来の高水準となりました。項目別でも「新規受注」は04年1月以来、「雇用指数」は06年5月以来の高水準でした。先日発表された製造業の景況感改善とともに非製造業においても回復基調が示唆されました。

米国株高を好感した買いが一巡した後も大引けまで堅調地合いが継続

米国株高を背景に国内株式市場は堅調に寄り付き、日経平均株価は10,500円台で寄り付きました。ほぼ全セクターが上昇する中、鉄鋼株には買い気配で始まる銘柄が目立ちました。経営統合が伝えられた鉄鋼大手二社の株価は急騰し、再編期待などから同業他社にも買いが波及し、鉄鋼セクターがダントツの上昇率トップとなりました。鉄鋼株に加え、電機や銀行などの主力株も軒並み上昇し、株高を牽引しました。日経平均株価は一時10,580円まで上昇する場面もありました。しかし、その後は市場予想に届かなかった決算銘柄を中心に利益確定売りが広がり、上値を抑えました。米雇用統計を控え、旧正月で中国などが休場ということもあり、その後は動意に欠ける展開となりましたが、堅調地合いは大引けまで継続し、結局、前日比+112円高の10,543円で引けました。

この1週間でTOPIXは+1.7%の上昇となりました。多くの企業が決算発表を行なう中、個別銘柄を選別する動きが中心でした。中東情勢の緊迫化や原油や穀物価格の上昇に伴うインフレ圧力等の不安材料も多く、為替市場では円高に振れたことなどが輸出関連株の上値を抑えましたが、商品先物高や好業績等から資源関連株が物色されたほか、旧正月でアジア各国が休場となる中、新興国株から日本株への資金シフト観測、そして鉄鋼セクターの業界再編の動き等が市場センチメントの好転に寄与しました。ただし、日経平均株価は終値ベースで約二週間ぶりに節目の10,500円を回復しており、来週以降は好業績等を背景に底堅いながらも、上値の重さが感じられる展開となることが予想されます。

以上